

富山ウラジオストク会は、冷戦終結を好機とした対岸諸国との交流期待が高まる中、富山県内の経済団体や企業が中心となり、平成元年に設立されました。

会の目的を、「ウラジオストク市及び沿海地方等に関心をもつものが相集い、経済、文化およびスポーツ等を通じて相互間の交流と親睦を図るとともに、極東アジアの安定と平和に寄与する」としており、これまでに以下のような交流事業を行ってきました。

■ ■ ■ これまでの主な交流事業 ■ ■ ■

- ・H3 富山県ソ連極東訪問団派遣(164名参加。団長:森本北陸電力会長)
～西側諸国で初のウラジオストク空港直行便(ソ連・アエロフロート航空)～
- ・H3 富山県ソ連極東経済事情視察団派遣(69名参加。団長:谷北陸電力社長)
～西側民間航空機(全日空)初のウラジオストク空港直行便～
- ・H8 ウラジオストクにおいて、写真や映像で富山を紹介する「富山フェア」を開催
- ・H11 富山市において、「ウラジオストクフェア」を開催
- ・H12 ウラジオストク市内の陸橋を「富山ー沿海地方・友好の橋」と命名、記念プレート設置
- ・H13 ウラジオストク国立経済サービス大学の敷地内に、両地域の友好交流の促進を目的に「富山・ウラジオストク友好庭園(森本庭園)」を造成
- ・H14 富山・ウラジオストク友好庭園内で「日本文化交流フェスティバル」を開催
- ・H16 富山市において「ロシア青少年芸術フェスティバル」を開催
- ・H18 ウラジオストク市内にある日本人ゆかりの建造物へ案内板設置(旧日本国総領事館ほか)
- ・H21 ウラジオストク市内において「当会設立20周年記念事業」を開催(富山や日本に対する理解を深めてもらうため、民謡・津軽三味線・華道等の日本文化を紹介)

また、ウラジオストク側には、当会のカウンターパート「ウラジオストク・トヤマ会」(会長:ラザレフ ウラジオストク国立経済サービス大学学長)が組織されており、双方が協力して、交流事業を行っています。

昨年(H24)9月には、ウラジオストク国立経済サービス大学内にある「富山ウラジオストク友好庭園」の開園10周年記念式典が行われ、富山ウラジオストク会から9名が参加、ロシアと日本との友好の輪が永遠に続くことを願いました。



滞在中、海上自衛隊2艇がウラジオストク港に停泊し、多くの隊員が市街を散策する姿が見受けられましたが、ウラジオストクが昔、旧ソビエトの軍港で外国人の立ち入りが制限されていたことを考えると隔世の感がします。

ウラジオストクでは昨年、APEC開催や、日本の自動車メーカーによる生産開始などがありました。今年は、ハバロフスクと東シベリア間を結ぶ東シベリア太平洋パイプライン(ESPO-2)が完成し、ウラジオストクから原油 70 万バレル/日の輸出が見込まれています。

ウラジオストクはじめ、ロシア極東地域は、新しい時代を迎えようとしています。富山ウラジオストク会としても、ロシア、ウラジオストクとの交流を継続し、両国の理解促進、相互発展を図っていきたいと考えています。

